

活動報告

団体名	NPO 法人チャルカ・ジャパン
活動名	高齢被災者等のための戸別困りごと相談及びコーディネート活動
活動期間	2019/11/01 ~ 2020/3/31
活動の成果	<p>丸森町で数件程度ケースマネージメントを行いました。その中の1軒は基礎の一部が流され解体することも考えられていたものの、家そのものを持ち上げ基礎部分を再建する工法で 2019 年のうちに工事完了となりました。いわき市では、床上浸水の家屋再建の相談が殆どで「概算でいくら位かかるか？」等の金銭的な質問が多かったことが、印象に残りました。ボランティアの人数も少なく、建築業者も順番待ちの状況の中、悪徳業者が横行しており、高額な見積りでまだ乾燥が終わっていない家屋の内装工事に掛かる業者もあり、そのような被害にあわないように啓発しながら 15~6 件の相談を受けました。浸水家屋の数、面積に対し支援者の数が圧倒的に少なく、原発事故の避難者も少なからず居住しており、複雑な関係性の中で情動的にも孤立している人が多く発生しているなか、ソフト面での支援が不足気味で歯がゆい思いでした。行政やボランティアでは専門的な事柄も思いのほか多く、対応が出来ない又は被災者の発するサインに気づかず、被災者が金銭的・時間的に大きな損失を被っているように感じるケースも少なからずあります。その中で、一見、空き家のようなお宅がありました。在宅避難している可能性があったのですが活動期間中には確認する事が出来ず、地元の団体にフォローをお願いし、在宅していることが確認されました。氷点下にもなろうと言う福島の寒い冬。住んでいた方は高齢の聴覚障害者で、人の呼びかけに気づかなかったとのこと。孤立を防ぎ情報と知識で不安を和らげ寄り添う、という目標は限られた時間の中で精一杯取り組めたと思っています。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>私たちは、行政やボランティアらの支援からもれた人、知識や情報がないゆえに無用な不安を持っている人を見つけ、ケースマネージメントを一人一人に行っています。孤立や自死、DV、犯罪などから救い出すことを目標にしています。活動の終盤は、「新型コロナウイルス」の感染拡大が始まり、交通手段を変更しました。陸路で往復 2800km の行程となるのですが、レンタカーやガソリン代など活動費用を心配することなく、活動を継続する事が出来たのは、皆さま一人一人のご寄付のお陰です。本当にありがとうございます。</p>

(活動のようす)

